

Rで操作でき、赤外線によるナイトモードが使える。ダウン、D/A、A/Dコンバーターとして利用

第5回映像伝送EXPO 今後の放送・制作に必要な機器を披露 IP伝送向けサービスや低遅延コーデック



アイベックス

アイベックステクノロジは、20ミ秒台という低遅延8Kコーデックを伝送アモした。ブースの8Kカメラ映像を既存の4Kエンコーダー「HL-DI500OE」4台につなぎ、NHK放送技術研究所共同開発のIP変換器でIP変換し、さらにブースに設けた60GHz無線機に接続。ブー

アイベックス

低遅延8Kコーデックを伝送アモした。

「第4回4K・8K映像技術展」と併催された「第5回映像伝送EXPO」(10月27-29日、幕張メッセ)では、今後の放送・映像制作業務に欠かせないIP伝送向けサービスや低遅延コーデックが披露された。

ス内にあるもう一方の無線機に無線伝送し、IP変換器↓4Kエンコーダー「HLD-5000D」×4を介して出力映像を見せた。

コイケ

コイケはKramerブランドの商品をそろえた。



コイケ

の抜け防止加工であるKramer独自の「K-LOCK」機構も実演した。

ブースでの遅延レベルの実測値も示したが、平均約26ミ秒遅延で実演できているという。IP変換器は来春発売予定。

東京エレクトロン デバイス

東京エレクトロンデバイスでは、要件に沿った検証やワークスと共同で、映像マルチキャストのスケール制作・伝送におけるIP化対応の課題を解決するための「TEDB I Lab」を紹介した。



東京エレクトロン デバイス

BI Labは、東京エレクトロンデバイスの新宿オフィス内に開設した放送業界向けのIPネットワーク検証ラボ。放送業界向けに実績のあるアリスタのスイッチやLawo社製品を中心と

きたが、必要 明することもできる。なときいつ